

授業概要

映像に見るアメリカ文化

英語圏文化の中心であるアメリカという国家の成立と文化を、映画などの映像からたどってゆく。皆の関心のあるアメリカ映画が分析の対象になる予定である。映画の重要な場面を見て、監督は何を意図したかという映画の意図的メッセージ、また文化無意識的なメッセージを分析してゆく。

授業計画

第1回	先住民問題・『ポカホンタス』：被害者と加害者の図式はいかにつくられるかを考察
第2回	奴隷制度・『アミスタッド』『ロストワールド』『猿の惑星』：奴隷の反逆を検証
第3回	移民という文化・『タイタニック』：被支配者はいかにして階級に挑戦するのかを考察
第4回	独立宣言のイメージと大統領というヒーロー・『インディペンデンス・ディ』：大統領というヒーローとアメリカの演説文化を考察
第5回	独立宣言のイメージと大統領というヒーロー・『インディペンデンス・ディ』：大統領というヒーローとアメリカの演説文化を考察
第6回	アメリカと銃社会・『ボウリング・コロンバイン』：銃規制の問題を考察
第7回	世界の警察としてのアメリカ・『リオ・ブラボー』『ダーティ・ハリー』：警察、保安官のイメージを検証
第8回	冷戦とモンスター映画・『ボディ・スナッチャー』『絶対の危機』：冷戦および共産主義を赤狩りのイメージを考察
第9回	核兵器とアメリカの覇権・『放射能X』：核兵器の恐怖イメージを検証
第10回	ベトナム戦争・『地獄の黙示録』『プラトーン』『ディア・ハンター』：ベトナム戦争を世論はいかにとらえたかを考察
第11回	エイズ問題と差別・『フィラデルフィア』『マイ・フレンド・フォーエバー』：なぜエイズ差別とゲイ差別が生まれたのかを考察
第12回	陪審員制度・『十二人の怒れる男』『ディスクロージャー』『ニューオリンズ・トライアル』：アメリカの裁判制度の根底を考察
第13回	湾岸戦争、イラク戦争・『戦火の勇氣』：メディア戦争としての二つの戦争を考察
第14回	同時多発テロとヒーローの復活・『マトリックス』『スパイダーマン』『MR.インクレディブル』：アメリカン・ヒーローのイメージを考察
第15回	総まとめ アメリカ文化のゆくえ
第16回	テスト（筆記試験）

到達目標

アメリカという国家の根底にある文化を知ること、国際理解を目指す。ニュース報道などが少しでも関心をもって見られるような現代社会の基礎知識がつくことを望みたい。

履修上の注意及び予習・復習

言うまでもなく授業中の私語、睡眠は許されない。マナーを尊重して楽しい授業にしてゆきたいので、積極的な参加を望みたい。大量の資料を配布するのでファイルを持参のこと。

評価方法

レポートと授業中のコメントや出席、および期末試験などの総合評価

テキスト

別に指定する（主にプリントなどの資料配布）